物流ニッポン
おかげさまで40th
2008年（平成20年）
5|22（木）
発行/月曜日・木曜日　第3134号
購読料/半か年32,130円（月額5,355円、税込）
©物流ニッポン新聞社 2008（昭和44年4月1日第三種郵便物認可）

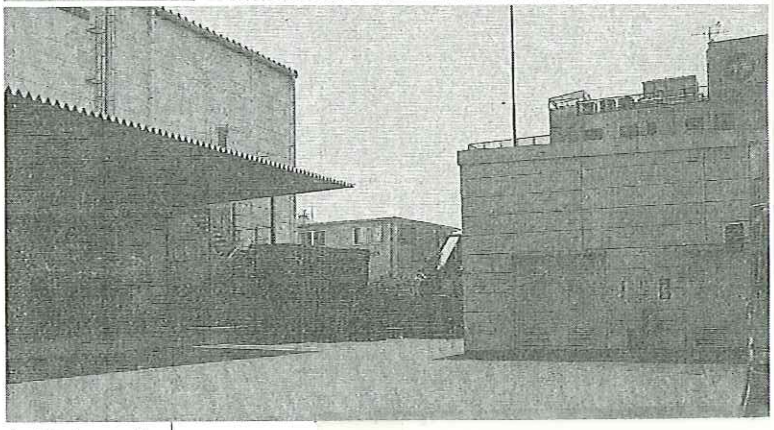
大型施設に併設の動き

拠点集約ニーズとリンク

三月に神戸ハイテクパーク内に開設した西神戸PDセンター（延べ床面積四万四千四百七十平方㍍）でも、危険品倉庫二棟（千九百二十平方㍍）を併設。危険品を含む流通関連貨物、輸出入貨物を主体としたセンター運営を行う。東日本、西日本における自社最大規模の物流センターは、一般品と危険品のセット化が差別化戦略の一つになりそうだ。

近隣地で確保急ぐ

一方、プラネット物流では、育毛剤、制汗剤、染み抜きなど「それ自体製品」を扱っており、決造過程で危険品に該当する物質が使用されている州の各流通センターでは通関連貨物、輸出入貨物は危険品ではないが、製量）を超える場合には危険品倉庫に保管しなければならない。このため、北海道、東北、中部、九併設するのがベスト」（事業推進部センター運営グループの戸島策宣シニアディレクター）としている。



センコーでは自社最大規模の杉戸PDセンターに併設した危険品倉庫3棟がフル稼働（上）。プラネット物流でも南関東流通センター敷地内に初めから設置

出荷のタイミングに合わせて、危険品倉庫に保管されている貨物を流通センターに持ち込み、合わせて出荷する。危険品倉庫と流通センター間の横持ち輸送をなくすため、「物流効率化の観点から、流通センター（一般倉庫）に危険品倉庫を

同社専用施設としてバンテック（山田敏晴社長、横浜市西区）が開設した南関東流通センター（神奈川県座間市）でも、敷地内に初めから百五十平方㍍の危険品倉庫を設置。しかし、一月にプロロジスパーク杉戸Ⅱに開設した北関東流通センターでは、敷地に余裕がなく断念。隣のセンコーの危険品倉庫も満杯で、できるだけ近い場所で探す方針だ。

内陸部では不足感

物流拠点の集約により、危険品に該当物質を含む製品が最大貯蔵量を超え、危険品倉庫に保管しなければならないケースが出てくると想定される。しかし、危険品倉庫のコンビナートや化学品などの工場が集積するエリア、またはメーカーの輸出入に便利な臨海部に多く立地しており、内陸部では不足感がある。

業界内では「倉庫の集まるところに、潜在的に危険品の保管需要はあり、危険品に該当物質を含む製品が最大貯蔵量を超え、危険品倉庫に保管要請される中、受け皿となる危険品倉庫があれば、需要が表面化してくる可能性も考えられる。これまで危険品倉庫はニッチなマーケットとされ、物流不動産ファンド、サードパーティー・ロジスティクス（3PL）会社も注目してこなかったが、高まるニーズへの対応も問われよう。